

	<h1>志木三小だより</h1> <p>学校教育目標 やさしい子 考える子 丈夫な子</p>	志木市立志木第三小学校
		平成28年度 No.7
		平成28年10月1日
		志木市柏町3丁目2番1号
		TEL 048 - 471 - 1062
		児童数10月1日現在580名

「福祉のこころを学ぶ」～みんなが **ふ**だんの **く**らしを **し**あわせに～  
校長 可知 良之

10月に入り一年間の後半に突入しました。授業にも工夫を凝らし様々な学習に取り組んでいます。4年生では今、かしわタイム（本校の総合的な学習の時間のネーミング）で福祉の体験学習を集中的に行っています。先日、点字シールの作成体験をしている様子を見ていたところ、一人の子が校長先生のを作ってあげるねと言って瞬間に私の名前を点字でシールにしてくれました。私は目が不自由ではありませんがこうして習ったことをすぐに実践に生かしていく、とてもいい学びになっていると感じます。

障がいと聞くと私はある女の子のことを思い出します。その子は片方の手の指が2本欠損していました。生まれつきではなく小さい頃の事故でなくしてしまったりしく、そのことでお父様もお母様もひどく後悔しておられるようでした。しかし、救いだったのはその子はとても明るく前向きで、指に障がいがあることなど一切気にせず学校生活を過ごしていく逞しい子でした。しかし、3年生になった時大きな試練が訪れました。3年生の音楽ではリコーダーの学習が始まります。リコーダーは指で穴をふさいだり空けたりしながら音を出す楽器です。この楽器で演奏することは彼女にとっては極めてハードルの高いことでした。音楽専科と担任、お母様と彼女で何度も話し合いました。出せる音だけ出せばい

いという選択もありましたが、その子はどうしてもみんなと同じように音を出したいという強い思いがありました。彼女の願いを叶えるため残った指だけで演奏する方法を調べ、彼女も工夫と努力をしながら独自の演奏方法を編み出し他の児童と同じようにリコーダーの演奏を愉しむことができました。

障がいはもちたたくもっている人はいません。ですから障がいをもつとは言わず障がいがあると言うようにしています。福祉の学習をしていると、子どもたちは素直な感覚で自分は障がいがなく良かった、障がいのある人はかわいそうという意識をもってしまいます。しかし、障がいがある方でも少しの理解と助けがあれば障がいのない人と同じように生活することができるということを学ぶのが福祉教育の一番大事なところであると思います。今年の福祉教育はまだ始まったばかりです。今月5日にはアイマスク体験、14日には車椅子体験、盲導犬の話（19日）手話体験（11月29日）と続きます。多くの体験が福祉のこころに繋がっていくことを期待しています。

\*志木市では、障がいのがいを平仮名で表記しています。

